

## 1. 安心・安全な学校や地域を目指すことについて

【質問】市内でメール配信システムが導入されているのは何校か。

【答弁】3校に導入されている。

【質問】導入を検討しているのは何校か。

【答弁】6校の小中学校が検討中である。

【質問】導入に向けたアドバイスやサポートを求められた場合、積極的に支援するのか。

【答弁】積極的に情報提供などの支援を行う。

【質問】子どもたちのイベントや行事には、制服警官の一時立ち寄りを要請できないか。

【答弁】防犯体制を強化するよう通知しており、相撲大会にも警備を要請した。

【質問】不審者対応訓練を、保護者や一般の方々も参加できるような形で実施できないか。

【答弁】地域行事やPTA行事の中で実施するよう対応を検討する。

【質問】市教委と環境安全課が連携し、かつ中心となって子どもたちを守るための仕組みを構築できないか。

【答弁】学校や町会及び各種ボランティア団体と協議しながら情報伝達手段について充実を図る。

【再質問】安心・安全な教育、学校、地域をつくることに関して、教育委員長の見解は。

【答弁】学校は安心、安全があって初めて教育の場になる。その一つの確保のための手段として、メール配信も有効であると考えている。実施の形態もしくは課題、成果をしっかりと見きわめて、この後の小中学校への指導をしていきたい。

## 2. 環境保全型農業を羽咋の新たな産業にすることについて

【質問】ふるさと寄付金の特典の野菜セットは、何件の申し込みがあったのか。

【答弁】56件中、9件の申し込みがあった。

【質問】環境保全型農業に対する期待は高いのではないか。

【答弁】今後さらに高まるよう、ふるさと寄附金のPRにも努力する。

【質問】野菜を「ゆ華」で提供できないか。

【答弁】無農薬有機野菜や自然栽培野菜等の活用についても積極的に推奨したい。

【質問】検討している道の駅での提供は。

【答弁】本市の特色を示すことができる素材であり積極的に活用すべきものと考えている。

【質問】農家民宿の起業希望者に対する助成や融資のあっせん制度を創設できないか。

【答弁】今後の検討課題とする。

【質問】起業支援制度の申し込みの件数は。

【答弁】平成17年度から9件の支援をしているが、今年度は申し込みがない。

【質問】低調の理由は。制度を再構築できないか。

【答弁】商工会など関係機関との連携やPRの強化を図っていくとともに、制度そのものの見直しについても検討する。

## 3. 駅東宅地の計画について

【質問】具体的なスケジュールや方針は。

【答弁】10月1日の販売開始に向けて現在販売価格、助成制度や販売計画の取りまとめを行っている。

【質問】「市民は買えない」と曲解する人もいる。

【答弁】税の滞納がないなど資格要件を満たしていれば、市内外を問わず販売対象者とする予定である。

## 4. 将来の羽咋市を担う職員像について

【質問】もう少し多様性を認める、もう少し突き抜けた存在を認める、許容するという風土や文化が、これからの役所にあってもいいのではないか。

【答弁】常に市民を第一に考え、組織として市長の掲げる政策を実現するために行動するよう今後も指導する。

【質問】縦割りの文化、いわゆるセクション主義や前例踏襲主義がまだ役所にあるとの認識は。あるならどう改善するのか。

【答弁】そういったものは無いと考えている。はくい再生推進室や地域防災対策室などのプロジェクトチームを組織し、課の垣根を越えて全庁的に対応している。